

## 話し合う情報モラルの授業実践

聖母被昇天学院高等学校  
教諭 岡本弘之  
okamoto@assumption.ed.jp



Hiroyuki OKAMOTO

## 1. はじめに

Hiroyuki OKAMOTO

情報発信をめぐるニュース  
(2013年7月)

- ローソン『アイスクリームケースに男性が入りネット上で炎上した店舗』をFC契約解除
- 「バイトしてるコンビニにサッカー選手Kが来た!」と防犯カメラの画像をtwitterに掲載
- 19歳看護学生、患者の臓器写真をツイッターに投稿→炎上

Hiroyuki OKAMOTO

## 授業の初めに聞いてみたら・・・

うちの学校では・・・

- 高校2年生のLINE・Facebookの利用は9割世間の現状でも
- スマートフォンの所有
  - 女子中学生で33%、女子高校生で54%の所有率
- 「LINE」の利用率
  - 女子中学生で94%、女子高校生で97%

『魔法のいらんどライフスタイル調査2013春』より  
女子中学生2,464件、女子高校生1,665件の計4,129件の回答

Hiroyuki OKAMOTO

## 学習指導要領では・・・

- 情報の発信時に配慮すべき事項については、情報通信ネットワークの普及に伴い、様々な通信サービスを利用して誰もが情報の受信者だけでなく発信者となれることと関連付けて理解させる。このことから、氾濫する情報から信頼性・信憑性の高い情報を選択できる「受け手」としての力を身に付けるとともに、責任ある情報の「送り手」としての素養を身に付ける必要があることに気付かせる。例えば、情報を発信する際には、間違った情報を出したり、誤解をまねく表現をしだりしないなど、個人の責任を自覚した発信を心掛けさせ、常に公開されていることを意識して情報を発信すること、発信した情報は簡単に消すことができないことを理解させる。  
(学習指導要領情報科解説「社会と情報」より)

Hiroyuki OKAMOTO

## 「社会と情報」でいえば・・・

- 情報の活用と表現
  - ア 情報とメディアの特徴
  - イ 情報のデジタル化
  - ウ 情報の表現と伝達
- 情報通信ネットワークとコミュニケーション
  - ア コミュニケーション手段の発達
  - イ 情報通信ネットワークの仕組み
  - ウ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション
- 情報社会の課題と情報モラル
  - ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題
  - イ 情報セキュリティの確保
  - ウ 情報社会における法と個人の責任
- 望ましい情報社会の構築
  - ア 社会における情報システム
  - イ 情報システムと人間
  - ウ 情報社会における問題の解決

Hiroyuki OKAMOTO

## 今回の授業のイメージ

- テーマ (目標)
  - SNSも含めた「情報発信」の注意点・活用を、主体的に考えさせる授業をしたい
- 授業方法の工夫として
  - 経験交流を行いたい
  - 話し合いを活性化するためKJ法やブレインストーミングの手法も取り入れたい
  - 影の部分だけでなく活用まで考えさせたい

Hiroyuki OKAMOTO

## 2. 授業の実践 (1) 授業の流れ

Hiroyuki OKAMOTO

### ①知識の整理をする (1時間)

<内容>

- Web・ブログ・SNSについて説明、更新の容易さ、双方向性、公開範囲についてワークシートの表でまとめる
- 人気ブログの分析 (ターゲット・発信内容の工夫)

項目	Web	ブログ	SNS
更新の容易さ	容易	容易	容易
双方向性	なし	あり	あり
公開範囲	個人	個人	個人・公開
更新頻度	任意	任意	任意

資料 生徒のワークシート

実際の画面を見せながら・・・



Hiroyuki OKAMOTO

2013年度 授業スライドより

## 今年はLINEについても



Hiroyuki OKAMOTO

2013年度 授業スライドより

### ②利点と注意点を整理する (1時間)

- ブログ・SNSでの情報発信について注意点・利点について表と付箋に書かせる
  - 自分・周りの経験から+調べたことの両方

① ブログやSNSなどといった個人が情報発信できるサービスの便利点 (メリット)・注意点 (デメリット)を是非列挙しよう。自身の経験周りの経験+調べてください。

② 個人で表に付せんを記入 → ③ グループで共有し、整理しよう。

項目	便利点 (メリット)	注意点 (デメリット)
自分や周りの経験		
調べたこと		

資料 生徒のワークシート

- ・ KJ法を使って意見を共有・整理させる
- ・ 4人グループで付箋と画用紙を使って整理

資料 説明に使ったスライド

Hiroyuki OKAMOTO

生徒が作業した画用紙①

Hiroyuki OKAMOTO

生徒が作業した画用紙②

Hiroyuki OKAMOTO

生徒発表「分析：ブログ・SNSの利点・注意点」

いいところ・長所	注意するところ・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を手に入れることができる</li> <li>・ 他への共有</li> <li>① 友達・人脈がずっとつながっている</li> <li>② 古い知り合い・友達と再会できる</li> <li>・ 心の安らぎ</li> <li>③ 共通の趣味・価値観の共有ができる</li> <li>・ 自分の考えを多くの人に伝えられる</li> <li>④ 友達の近況が知れる・把握できる</li> <li>・ マスコミより詳しい情報を入手できる</li> <li>⑤ 情報が早い・スピーディー</li> <li>・ コメントやいいねでコミュニケーション</li> <li>・ 新たな人間関係の構築</li> <li>・ グループ機能で行事などの情報共有</li> <li>⑥ SNSは顔見知りなので安心</li> <li>・ 顔見知りなので誹謗中傷が少ない</li> <li>・ 災害の時に役立つ</li> <li>⑦ 国を超えてつながることができる</li> <li>⑧ 多くが無料で利用できる</li> <li>・ 履歴がさかのぼれるので昔の写真も</li> <li>・ 誰でも簡単にできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 知らない人から誘い・友達申請あり</li> <li>・ 出会い系の危険性</li> <li>⑩ 写真を載せてプライバシーの流出</li> <li>⑪ なりすましがあがる</li> <li>⑫ 中毒・依存・ストレス</li> <li>・ 情報の正確さ・二重の情報</li> <li>・ 匿名なので過激になることも</li> <li>⑬ 犯罪・詐欺に巻き込まれる</li> <li>・ 小さなことが大きな事件に発展するかも</li> <li>・ 生活習慣の乱れ</li> <li>・ 批判されることで精神的苦痛</li> <li>・ 「既読」がストレス</li> <li>⑭ 個人情報が入手できる・漏れる</li> <li>・ 公開の設定の見直し</li> <li>・ ウソの情報が回ってくる</li> <li>・ 有料サイトへの誘導</li> <li>・ 位置情報・個人的写真の流出</li> <li>・ 無料ゲームが途中から課金</li> </ul>

Hiroyuki OKAMOTO 2013年度 K2A 発表項目メモ

## 知識のまとめと考察

<知識の整理>

→ 具体的にブログやSNSで他人の個人情報で気をつけることは?

- ① 自分・他人の個人情報に注意する → 自分自身は公開範囲を制限可能
- ② 著作権・肖像権に配慮する → 法外盗犯は×、誤断は著作権あり
- ③ 悪口・批判などネガティブ表現に注意 → 一時的に不快・傷を癒すのは無料にも一歩のちがって戻られても元々の情報発信を?

考察 自分のブログ・SNSで情報発信をする際に、どのようなことに気をつけるべきか? 箇条書きで具体的に書いてみよう

Hiroyuki OKAMOTO

## ③得た知識をアウトプットする (1時間)

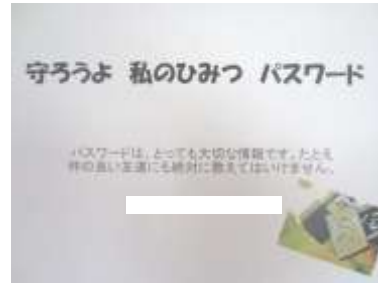
- ・ 中学生に呼びかける標語を考えさせる
- ・ 標語と説明を書いたポスターを作る

資料 生徒への提示スライド  
Hiroyuki OKAMOTO

## 標語の応募・掲示

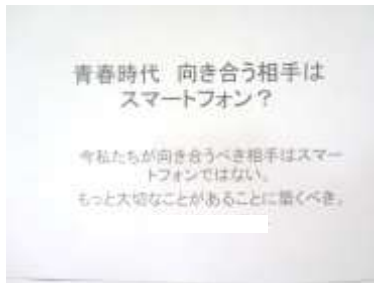


## 生徒の作品例①



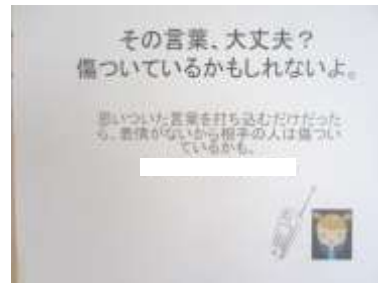
Hiroyki OKAMOTO

## 生徒の作品例②



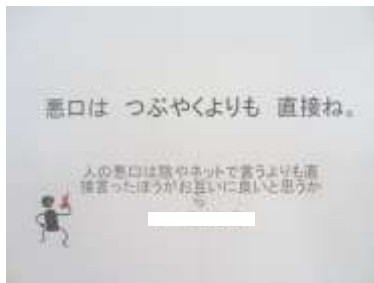
Hiroyki OKAMOTO

## 生徒の作品例③



Hiroyki OKAMOTO

## 生徒の作品例④



Hiroyki OKAMOTO

## 3. 考察とまとめ

Hiroyki OKAMOTO

## ①生徒の感想からの考察

- 「SNSの注意事項を初めて見た」  
→ 注意事項の調べ方が学べた
- 「カメラの位置情報に気がつけて」  
→ 具体的で新しい注意事項が学べた
- 「注意点を守ればコミュニケーション」  
→ マイナス・プラス面のバランスが良かった
- 「話し合いは楽しかった・参考になった」  
→ 受け身ではなく主体的に授業に取り組めた

話し合いの準備を  
させたから経験交流  
させたからうまい活用例が  
だから話し合いが  
活発に行えたから

Hiroyuki OKAMOTO

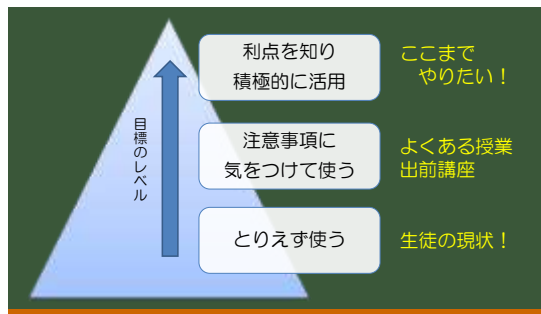
## ②授業の効果

### 「話し合う」情報モラルの授業は

- 「準備→話し合い→発表→教師の解説」の各段階で生徒の学びがあった
- KJ法といった話し合いの方法を使ったことで、全員が話し合いに参加でき、活発な意見交換ができた
- 注意点だけでなく、利点を知ったことで、積極的な活用を考えることができた
- 生徒が主体的に取り組んだことで、自分の情報発信を見直すなど次の行動につながった

Hiroyuki OKAMOTO

## ③情報モラルの授業の目標



Hiroyuki OKAMOTO

## 今日のお話のまとめ

情報モラルの授業では・・・

- 話し合わせ、生徒同士の経験交流をさせよう！
- ついでに話し合いのさせ方も教えよう！
- 困った時の「調べ方」を教えよう！
- 生徒の話から授業を組み立てよう！
- マイナス面だけでなく利活用も考えさせよう！
- 得た知識をアウトプットさせよう！

Hiroyuki OKAMOTO

## 続きはWebで

「情報科の授業アイデア」

<http://www.okamon.jp>

プリント・スライドも公開しています



「情報科 授業」で検索



Hiroyuki OKAMOTO